

## 平成30年度 第1回 大阪府立狭山池博物館運営審議会 議事要旨

日時 : 平成30年6月27日(水) 18:00~20:07  
場所 : 大阪府公館 大サロン  
出席者 : 委員) 岡田委員・小山田委員・栄原委員・中川委員・向山委員(会長)・森委員・和田委員  
計7名 (欠席=金田委員・佐伯委員)  
事務局) 武井河川室長、小池河川環境課長、尾花富田林土木事務所長  
工楽館長、吉井副館長  
関係者) 大阪狭山市教育委員会 山崎部長、大阪狭山市都市整備部 田中課長(楠部長代理)、  
大阪狭山市政策推進部 森課長(田中部長代理)、狭山池まつり実行委員会 菊屋会長

### まとめ

#### (1) 狭山池博物館の効果的、効率的な運営について

- ・ 効果的、効率的な運営に向けた改善の方向性について各委員より意見を聞いた。
- ・ 意見を基に、「具体的な運営方法の改善」「新たな収入確保にむけた具体案」についてとりまとめ、次回審議会に諮る。

### 概要

(資料1に基づき、事務局より説明)

#### 〔各委員の主な意見〕

(全体的な意見)

- ・ 議論の方向性については理解できる。
- ・ 資料について、文言や資料間の関連付け等、整理が必要。

(岡田委員)

- ・ 防災について考えることは賛成。一方で狭山池の役割として利水も重要。「利水」というキーワードも入れるべき。
  - ・ どぼくランドの充実については早急に検討願いたい。おもしろく、正確で、充実した事例を集め、博物館の顔として活用してほしい。
  - ・ 博物館が調査研究してその成果を発表することも重要であり有効だと思う。
  - ・ 科学研究費や財団等の助成金といった外部資金をとれないのか？
- (事務局返答) 外部資金を獲得する仕組みについて調査検討する。

(小山田委員)

- ・ 施策の実現には資金の問題がある。優先順位をどうするかという合意形成が必要である。
- ・ 三者協働による運営が疲弊しているのは事実だと思う。三者協働運営は行政と周辺コミュニティーと一緒にあって新しい価値をつくるものであり、全国的に見ても一モデル的存在である。三者協働体制が円滑に機能しその持ち味が活かせる方策について検討を進めていただきたい。
- ・ 他機関との連携については、三者協働運営という核に、他機関が結びつくというイメージである。
- ・ 調査研究は必要だと思う。ただし、調査研究は時間がかかるものなので、他の業務との兼ね合いから、人員体制の充実が必要である。

(栄原委員)

- ・ 土木主体の博物館としては全国唯一であることをもっと強調すべき。全国の関連している施設をつなぐキー博物館として位置づけて展開する方が、狭山池博物館の存在の明確化につながると思う。

- ・ 関係機関との連携について、連携とはどういうことなのか教えてもらいたい。
- (事務局返答) 企画や普及の部分で関係機関と連携していきたいと考えている。
- ・ 寄付金、クラウドファンディングなどによる新たな収入の確保については、収入をあげた分現状予算を削減されることがないことが前提。集まったお金を自主財源化できるという裏付けをとってからやるべき。
  - ・ ファシリティマネジメントについて、今年度も継続審議ということであるが、どうすればクリアできるのかが見えない。見通しや考えがあれば示してほしい。
- (事務局返答) 新たな収入確保策を示すことが求められており、それがミッションであると考えている。
- ・ 土木といっても土木技術と土木史の側面がある。資料中の施策イメージは土木技術の方に偏ってしまっていると思う。歴史的なことに関心を持つ人もたくさんいると思うので、そこをすくい上げることも必要だと思う。

#### (中川委員)

- ・ 意義、方向性は大事なこと。それに対してお金を出せるかということが最終的に大事なところになる。
  - ・ 寄付金、クラウドファンディングに関して、一定は博物館で使えるような制度設計をしておくべき。
  - ・ 博物館の調査研究で、外部資金の利用や外部のプロジェクトと連携することが可能なのか？
- (事務局返答) 狭山池博物館では科学研究費を受託する仕組みを持っていない。どうすれば受託できるようになるのか調査検討する。
- ・ 日本で唯一の土木博物館ということと合わせて、何でもいいので日本一の博物館であるということでネームバリューやプレゼンスを出す取組みが必要なのではないか。そうすることでSNS等で話題になって行ってみようという人が増えるのではないか。
  - ・ 運営側で考えていることが利用者のニーズと一致しているかということが大事。アンケート調査等で確認したニーズと一致するようなもの、あるいはその上に行くようなものを発信していけばいいと思う。
  - ・ 評価指標を達成したらどうなるのか？大学では達成すれば運営交付金が増えるというインセンティブを与えている。達成しようという意欲が出るような仕組みにしないといけない。
  - ・ ホームページ中に展示物や資料の解説やアーカイブスを掲載することで、解説を見た人が博物館に訪れたり、アーカイブスを見た研究者が資料を見に来たりというような利用の広がりにつながるのではないか。ホームページを見た人をカウントして利用実績としてもよいのでは。

#### (向山委員)

- ・ 狭山池には多くの人が集まっているが、狭山池に来た人が博物館にも来てもらえるような仕組みができないか。
- ・ 必要な運営費は府の予算を要求して確保するということが本来あるべき姿だと思う。寄付金やクラウドファンディング等の外部資金は補助的な手段に過ぎない。府の財政状況が悪い中で外部資金を取りに行くという姿勢は必要。
- ・ 指標の設定にあたり、博物館が存続する価値がこれだけあるということを何らかのデータで示すことができないか。
- ・ 地域魅力の中に、博物館が位置付けられたらよいと思う。

#### (森委員)

- ・ 運営費が抑えられて、博物館の魅力である水庭の滝の運用時間がどんどん短くなっていることは非常に残念。また、映像展示の補修もうまくできていないところがある。
- ・ 展示の改良という展開が挙げられていたが、これからは様々な補修等が必要になってくる中で、本当にできるのか実現可能性を検討する必要があると思う。
- ・ 年配の方や障がいをお持ちの方に対する施設面の改良ができないか。例えば、路面の凹凸をなくしたり、案内表示を見やすくすることができないのか。
- ・ デジタルなど新技術を導入することで、子供たちにも大人の方にも、外国人の方々にも展示内容をより理解してもらい、満足して帰っていただくようになればありがたいと思う。

- ・ マスコミ媒体を積極的に活用して宣伝してもらったり、インターネットの口コミサイトで利用者に博物館のことを広めてもらったりするための努力も必要。

(和田委員)

- ・ たまたま博物館に立ち寄った人のような、土木技術や狭山池の歴史に興味がないような人はターゲットから外すのではなく、博物館のリピーターとなってもらえるようにしていくとできればよいと思う。
- ・ 評価指標と収支改善がつながるように整理できればよいと思う。
- ・ クラウドファンディングについて、直接的な収入につながるものではないが、ファンディングではなくファンクラブ的な下支えによって、収支の一部が改善されるということがあるのではないか。地元のバックアップはすごく大事だと思うので、そこが評価されるようにすべき。